

平成28年度 事業報告（みゆき福祉会）

《 法 人 》

1 理事会・評議員会

平成28年 5月25日（水） 理事会

場 所 みずほの里 大会議室

協議事項 社会福祉法人みゆき福祉会 経理規程の一部改正について
平成27年度 2次補正収支予算（案）について
平成27年度 事業報告及び収支決算について
監査報告

平成28年 5月25日（水） 評議員会

場 所 みずほの里 大会議室

協議事項 社会福祉法人みゆき福祉会 経理規程の一部改正について
平成27年度 2次補正収支予算（案）について
平成27年度 事業報告及び収支決算について
監査報告

平成28年 7月6日（水） 臨時理事会

場 所 みずほの里 大会議室

協議事項 平成28年度 事業計画の一部追加について
平成28年度 1次補正収支予算（案）について
社会福祉法人みゆき福祉会 経理規程の一部改正について
評議員の選任について

平成28年 7月6日（水） 臨時評議員会

場 所 みずほの里 大会議室

協議事項 平成28年度 事業計画の一部追加について
平成28年度 1次補正収支予算（案）について
社会福祉法人みゆき福祉会 経理規程の一部改正について
役員を選任について

平成28年 7月15日（金） 理事会

場 所 みずほの里 大会議室

協議事項 理事長の互選について

理事長職務代理者の指名について

平成28年12月21日（水） 理事会

場 所 みずほの里 大会議室

協議事項 平成28年度 2次補正収支予算（案）について
定款の改廃について
評議員選任・解任委員会運営細則の制定について
就業規則の一部改正について
介護休業等規程の一部改正について
育児休業等規程の一部改正について
継続雇用制度実施規程の一部改正について
労働条件限定職員転換制度実施規程の一部改正について
給与規程の一部改正について
職員被服貸与規程の一部改正について
被服手当支給要綱の一部改正について
臨時職員取扱要綱の一部改正について

平成28年12月21日（水） 臨時評議員会

場 所 みずほの里 大会議室

協議事項 平成28年度 2次補正収支予算（案）について
定款の改廃について
評議員選任・解任委員会運営細則の制定について
就業規則の一部改正について
介護休業等規程の一部改正について
育児休業等規程の一部改正について
継続雇用制度実施規程の一部改正について
労働条件限定職員転換制度実施規程の一部改正について
給与規程の一部改正について
職員被服貸与規程の一部改正について
被服手当支給要綱の一部改正について
臨時職員取扱要綱の一部改正について

平成29年 3月1日（水） 臨時理事会

場 所 みずほの里 大会議室

協議事項 定款施行細則の一部改正について
評議員選任・解任委員会 委員の選任について
評議員候補者の推薦及び評議員選任・解任委員会の招集について

役員等報酬規程の制定並びに役員報酬等の取扱要綱及び
退任役員謝礼取扱要綱の廃止について
旅費規程の一部改正について
施設長の任免について

平成29年 3月9日(木) 評議員選任・解任委員会
場 所 みずほの里 会議室
協議事項 評議員選任・解任委員会 委員長の互選について
評議員の選任について

平成29年 3月22日(水) 理事会
場 所 日本の宿 古窯
協議事項 平成28年度 3次補正収支予算(案)について
経理規程及び経理規程細則(H28.4.1)の一部改正について
経理規程及び経理規程細則(H29.4.1)の一部改正について
平成29年度 事業計画について
平成29年度 収支予算について
内部管理体制の基本方針及び理事等職務権限規程の制定について
監事監査規程の制定について
法人事務局長の任免について

平成29年 3月22日(水) 評議員会
場 所 日本の宿 古窯
協議事項 平成28年度 3次補正収支予算(案)について
経理規程及び経理規程細則(H28.4.1)の一部改正について
経理規程及び経理規程細則(H29.4.1)の一部改正について
平成29年度 事業計画について
平成29年度 収支予算について
理事の選任について
内部管理体制の基本方針及び理事等職務権限規程の制定について
監事監査規程の制定について
法人事務局長の任免について

2 経営基盤の安定

平成28年度における事業収入は、一部在宅サービスの稼働減少により、当初予算対比99.2%、前年度対比99.0%となった。経費等は、上半期、石油等製品が安価で経費が減少したことと人員配置計画より実採用が減少したことで当初予算対比97.2%、前年対比100.2%となり、経常増減差額は、当初予算対比201.3%、前年対比78.2%となった。

改正社会福祉法への対応は、事前研修会等での情報収集や会計事務所からの支援等により適正に対応した。また、経営組織の見直しについても年度内に新たな役員等の選任を実施した。

3 施設整備

各施設とも修繕計画に沿って施設の保全に努めた。各施設で耐用年数を超える機器・設備等の修繕や工事を施工した。また、職場定着支援助成の認定を受け介護福祉機器（みずほの里機械入浴装置）の更新や平成28年度地域介護・福祉空間整備等施設整備補助を受け防犯カメラの設置（みずほの里／ながすずの里）を実施した。

次年度以降の設備更新についても事前に状況を把握し更新計画を策定した。

4 法人本部事務局体制の確立

改正社会福祉法への対応として内部管理体制等の強化、法人組織体制の再構築、本部主導での大口取引業者とのサービス検討会を実施した。

また、定款及び定款施行細則の一部改正、理事等職務権限規程、監事監査規程、経理規程など改正法に係る規程の整備や職員の労働条件等の見直しによる諸規定等を改正した。

平成28年度より新たに法人本部に経営企画室を設置し、次世代の経営者育成のため、短期・中期的な視点での法人経営に係る課題等の取組検討を行った。

5 人材育成

法人教育方針及び年間計画のとおり、中級研修・上級研修・管理職研修の階層別研修を実施した。また、法人内及び外部研修の他、昨年に引き続き職員1名を海外研修としてオーストラリア介護施設等に派遣し、情報共有を図るため各拠点において研修報告会を実施した。

山形県労働局委託事業「雇用管理改善促進事業」を受託し、外部の社会保険労務士による人事考課講習会（管理職対象）を実施し中間管理職のマネジメント力向上を図った。

6 選ばれる施設・選ばれる職場

関係法令に従いストレスチェックを実施した。また、職員一人ひとりのワークライフバランスに配慮した多様な働き方への転換制度の利用促進や両立支援委員会による子の看護休暇取得促進など労働環境の充実を図った。

介護職員の資質向上を図るため、介護職員実務者研修対象者6名へ奨学貸付制度を利用し受講費用の一部貸付を実施した。

7 IT化推進

昨年リニューアルしたホームページを活用し、写真や動画による可視化を図り、定期的な情報更新や求人情報等の実施、法令に従い法人の財務状況を公開した。

また、3拠点（みずほ・ひいな・ながすず）間のデータ通信環境、機器及び端末管理等を実施した。

8 社会福祉法人としての公益的な取組みの検討

社会福祉法人として低所得者への利用者負担軽減制度を各拠点で実施した。

例年通り、関係機関と連携して行政が主催する介護保険事業運営協議会、在宅医療連携推進会議、地域包括支援に関するネットワーク会議、地域包括ケアシステムの構築に向けた会議等に積極的に参画した。

各拠点においては、地区会・民生児童委員等と連携し、地域高齢者会食会・家族介護教室・認知症サポーター養成講座・夏祭りを開催する他、地域行事・資源回収等への参加を通して支援活動の充実と地域住民との交流を図った。

山形県の登録研修機関として喀痰吸引等研修会を実施し、法人職員以外の受入を積極的に行い地域における介護人材の育成に努めた。

《 みずほの里 》

1 経営基盤の安定

長期入所平均稼働率 95.8% (前年 97.7%)、短期入所平均稼働率 98.0% (前年 99.0%)、大規模型デイ平均稼働率 86.3% (前年 90.8%)、認知症対応型デイ平均稼働率 69.2% (前年 65.0%)、GH平均稼働率 98.4% (前年 97.8%)、居宅介護担当確保 1,517件 (前年 1,365件) となった。長期入所は8月の感染症による利用率の低下や入退所者数の増加による空床期間の増加のため目標稼働率は未達となった。短期入所、デイサービスについては、新規契約者は前年より増加しているものの、体調不良者や契約終了者がそれを上回る状況であった。認知デイ、GH、居宅についてはほぼ計画通りに推移し目標稼働率を達成することができた。

2 施設整備

上半期に、グループホーム和式トイレの洋式トイレへの改修工事および給湯設備改修工事を実施。下半期には中間浴槽の入換えを実施した。また、経年劣化による設備機器の修繕も行った。

3 人材育成

ケアマネジメント、接遇、認知症ケア部会で日常ケアの課題を検討し実践に繋げており、認知症ケア部会ではケアのヒント集・事例集を作成した。今後の現場指導に活かしていく予定である。また、アセッサー養成研修を2名の職員が終了し、1名のレベル取得者が誕生した。さらに、看取りケアの内部研修では、全国老協協で評価の高かった愛知県の施設より講師を招き、他施設の職員の参加を得ながら研修会を実施した。そのほか、施設内事業所間の交換研修、2～3年目職員研修、パート職員の研修も実施した。

4 選ばれる施設・選ばれる職場

8月に顧客満足度調査を実施し、長期入所、短期入所、デイサービスいずれの部門でも概ね良い評価を得られたが、情報の提供や苦情・要望の言いやすさについて不満足の高割合が高く、平成29年度の事業計画に対策を盛り込んでいる。調査結果は施設内に掲示した。

在宅部門において自立支援に向けた介護の取り組みを推進し、機能訓練の定着がみられた。長期入所における自立支援活動では、活動の効果が布パンツ使用者割合の増加や下剤利用者の減少という結果として現れた。

奨学貸付金を4名の職員が利用し、介護福祉士資格取得へつなげた。

5 みゆき会グループ、自治体、他関係機関との連携の推進

相談員と居宅介護支援部門がグループ内での定期的な勉強会や情報交換を実施した。その他の関係機関との連携も同様に行った。

6 社会福祉法人（施設）としての公益的取組の検討

社会福祉法人の公益的取組みとして、利用者負担軽減事業を9名の利用者に対して実施した。その他、夏祭りや各委託事業、ミュージックケアや理学療法士による体操（高齢者サロン）等各種講座の依頼を受け職員を派遣し、地域住民とのつながりを持ち施設の持っている資源を地域に還元した。また、市内3事業所から受講者を受入れての喀痰吸引等の研修や認知症研修、各種学校の実習生の受入も積極的に行った。

《ひいなの里》

1 経営基盤の安定

長期入所平均稼働率 98.5% (前年 98.3%)、短期入所平均稼働率 92.3% (前年 95.8%)、通常規模型デイ平均稼働率 85.7% (前年 89.9%)、認知症対応型デイ平均稼働率 59.2% (前年 73.0%)、居宅介護担当確保 1,109 件 (前年 1,240 件) となった。特養は入院者等が少なく高稼働で推移したため目標をクリアできた。短期入所は新規登録者は増えたが、1人あたりの利用日数が減ったことと急なキャンセル等の理由で目標に届かなかった。通所介護は体調不良、入院等の影響が強く目標に届かなかった。認知症対応型通所介護は施設サービスへ移行する方が多かったことや新規利用者が増えなかったことが影響し、目標に届かなかった。居宅は新規介護認定者の減少で逝去や特養へ入居された方の契約者減を補うことができず目標に届かなかった。

通所介護については今年度より総合事業が開始になり、対象者が大幅に増加している。総合事業の単位が低く1日の利用人数にも限度があるため、現在収入だけを考えた場合には難しい事業であるが、通所介護だけではなく施設全体の利用者確保の大きな窓口となっている。

2 施設整備

計画的な環境整備として、ひいなの里玄関の看板修繕を行った。また、開設10年がすぎ、建物・設備における不具合箇所が出てきており、大きなものとしてはエアコン6台、スチームコンベクション、汚物除去機、給湯器、特殊浴槽のストレッチャーの修繕等を行った。

3 人材育成

新卒者が2名入職し、エルダーによる日々きめ細やかな指導を行うほか、初級職員研修を行った。待遇・記録や介護の具体的な方法について学ぶとともに、利用者体験を行うことで普段の仕事を通してだけでは気づかない部分を再確認できたとの感想があった。さらに学ぶ側と指導者及び上司間で介護に対する共通の認識を持つことができた。また、今年度初めて介護職員の資質向上を目的とした、介護キャリア段位制度活用に向けたアセッサー(評価者)養成講習会に参加し、アセッサーを1名養成した。今後は、介護職員のキャリアアップに向け、キャリア段位制度の有効活用を図っていきたい。

外部研修の活用推進として、積極的に外部研修へ参加し、専門的知識を学ぶ機会を得るとともに外部に出ることでの他事業所との関係作り、意識向上やモチベ

ーションアップにつなげた。また、海外研修と認知症介護指導者養成研修へ2名の職員が参加できた。

内部研修会の出席率向上のための工夫として、事前の出欠確認を行うこと、研修日を毎月26日に固定する対策を行った。また、全国で活躍されている外部講師を招いて研修会を行い、職員のスキルアップ、モチベーションアップにつなげた。

4 選ばれる施設・選ばれる職場

新総合事業への取組みの推進として、利用者数は順調に増えている状態であり、今後も町や地域包括支援センター等の各関係先と連携しながら進めていきたい。また、学習療法も継続して行っており、今後は認知症対応型デイにおいて特化したサービスとして実施していく。

5 IT化推進

各事業所における活動状況について積極的にブログ更新を行うことで情報発信に努めた。介護ロボット利用促進啓発セミナーに参加し、今後の介護ロボット導入に向けた検討を行った。

6 みゆき会グループ、自治体、他関係機関との連携の推進

相談員部門・居宅介護支援部門・医務課部門で、みゆき会と定期的な研修会を実施した。運営推進会議等の開催により、地域や行政など関係機関との連携を図った。また、ひいなカフェ（認知症カフェ）へ協力いただくことで各関係機関との連携の強化を図っている。近隣に開設した認定こども園との交流活動も積極的に行った。

7 社会福祉法人としての公益的取組の検討

地域交流ホールを開放して、ひいなカフェ（認知症カフェ）を開催し外部講師からの講演、福祉用具の展示、利用者様の作品展示等を行うことで多くの方から利用してもらい交流を深めた。また、学生の介護ボランティアや外部からの訪問等、地域に根ざした親しみある施設を目指して積極的な受け入れを行っている。また、要害地区の資源回収や河北町おもいやりプロジェクトに参加し協力活動を行った。

《 ながすずの里 》

1 経営基盤の安定

特養平均稼働率97.1%（前年96.4%）、グループホーム平均稼働率97.6%（前年91.7%）、小規模多機能平均登録稼働率95.9%（前年66.9%）、居宅担当確保数（介護予防込）820件（前年981件）となった。特養、グループホームともに前年は上回ったものの、特養は毎月入院者がおり稼働率が安定せず、グループホームは利用者退所後の空床や体調不良の入院者もあり、目標達成とならなかった。小規模多機能は目標の登録者数25.5名を超える27.8名の平均登録者数となり、安定した登録者数となった。しかし、平均介護度が低く、宿泊者も少なかったため収入の増加には至らなかった。居宅は年度途中で職員数が減少した期間があり、プラン数が減って目標には届かなかった。

2 施設整備

グループホーム標のトイレ洗面台の補修と手すりの取り付け工事、厨房の換気扇の修理を行った。施設内外4か所へ防犯カメラを設置し、防犯体制を強化した。パブリックスペースや各ユニットのダイルームに、季節に合わせた装飾や家具、植物を設置し、生活感のある環境づくりに努めた。地域交流ホールにおいて、かみのやまカフェ（認知症カフェ）を開催し、誰でも集える沙龙的な空間づくりに努めた。山形パナソニック様より車いす1台を受贈した。

3 人材育成

定期的な内部研修等で介護力・接遇力向上に取り組んだ。介護力の取得のため外部研修へも積極的に参加した。新人への対応として、エルダーによる指導を行った。ユニットケアリーダー研修を2名修了し、各部門のユニットリーダーのマネジメント力の向上を目指し、外部研修への派遣や毎月のユニットリーダー会議での課題解決に取り組んだ。事業所間での職員交換研修を行い、事業所体験を行った。介護プロフェッショナルキャリア段位制度評価者1名取得し、介護力向上に努めた。ほぼ全職員が認知症サポーター養成講座を受講した。

4 選ばれる施設・選ばれる職場

中重度者介護への対応として、喀痰吸引等研修へ3名の参加者を出した。認知症ケアの理解を深めるため、認知症介護実践者研修を2名修了した。奨学金貸付制度を2人が利用するなど資格取得をサポートし、6名が介護福祉士資格試験に合格した。この他、レクレーション介護士2級、介護アロマセラピー、キャラバンメイト、防災士等の資格取得を図った。定期的に防災訓練を行い、地元消防団や家族、民生委員よ

り意見や助言をもらった。長清水地区の夏祭り、南小・南中運動会、南部地区のレクレーション大会など地域の行事に積極的に参加した。2事業所で「食のリハビリサポート」を開催した。感染症対策委員会で施設の感染症対策マニュアルを策定して冬期間の感染症予防に取り組み、感染症の二次感染者が全く発生しなかった。

5 みゆき会グループ、自治体、他関係機関との連携の推進

相談員部門・居宅介護支援部門で、みゆき会と定期的な連絡会を実施した。みゆき会病院の歯科より訪問診療と定期的に口腔ケアの指導に来てもらった。運営推進会議等の開催により、地域や行政など関係機関との連携を図った。

6 社会福祉法人（施設）としての公益的取組の検討

地域交流ホールを開放して、かみのやまカフェ（認知症カフェ）を開催し、隔月でさまざまな企画を催し認知症を身近に感じてもらえる場所作りに努めた。この他、地域包括支援センター主催のケアマネの集いの開催、また、地域子ども会の樽神輿の披露場所として立ち寄ってもらい、利用者と地域の子供たちとの交流を深めた。納涼祭を開催し、地域の方との交流を図った。地区子供会の資源回収活動に参加し、協力活動を行った。小規模多機能でペットボトルのキャップを集め、海外の子どもたちへのワクチン代として山形銀行へ寄付した。介護の映画「つむぐもの」上映会を企画し、上山市報等でPRしてもらおうとともに介護の情報発信を行った。